

上州富岡駅



南側外観。東南方向より見る。

長さ89m、高さ6.9mの大屋根に覆われた空間、交流スペース。右手前の小型屋根の下にインフォメーションスペース。駅舎の前面に広場。



選評

二〇一四年六月、世界遺産に登録された富岡製糸場の最寄駅である上信電鉄上州富岡駅の建て替えと、駅舎周辺の道路や広場の整備を包含した街の景観づくりに取り組んだ作品である。

この駅を特徴付けているプラットフォームと呼ばれる大屋根は、幅八八メートル、高さ六・九メートル及び、地方鉄道の駅の設えとしてはかなり大きな都市的スケールであるが、駅舎だけでなくホームや歩道の一部までを覆うことによってシンポル的な場を屋根下に創出している。

特に交流スペース、インフォメーションスペースと名付けられた半屋外空間は、十分な空間ボリュームを持つことで、日常的な駅利用者への利便性の向上はもとより、富岡のどんと祭りなどの非日常的なさまざまな活動の拠点となり、街の活性化に繋がることは間違いないだろう。

一見、地震力がどのように伝達

されているか理解しがたいシンプルな大屋根空間のデザインを、見事に実現させた構造設計者の貢献度は高い。主体構造を木骨煉瓦造という当時の最先端技術を採用した富岡製糸場の精神を現代に継承しつつ、本計画では素材の力学的特性を活かすべく鉄骨フレームに煉瓦をまとりつかせる鉄骨煉瓦積造という構造形式としている。薄肉のスチールプレートブレースの座屈を抑えるために、プレストレスをかけた煉瓦で覆い、その存在を消すことで視線の抜けるような空間の創出に寄与している。構造計算だけでは導きにくい特殊な工法による解決であるため、モックアップで事前に繰り返し安全性を検証した上で施工に着手している点も、評価に値する。また、軽やかに浮かぶ屋根架構の納まりを含め特殊な素材は使っていないものの、前例のない架構を設計者の求めるシンプルな表現で見事に納めきった地元施工者の技術と傾注

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPタワー
静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル Junko Fukutake Hall 鈴木大拙館 ダイビル本館・中之島 四季の丘 はあと保育園
明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅



建築主

世界遺産の玄関口として より ふさわしい駅周辺整備

上州富岡駅は、世界遺産登録された富岡製糸場の玄関口として、世界遺産のまちにふさわしい景観の一部となるよう、行政、上信電鉄、市民及び学識経験者からなる「上州富岡駅でざいん検討委員会」を設置し、駅前広場や駅舎整備のデザインの基本方針を提案しました。

新駅舎については、設計提案競技（プロポーザルコンペ）方式により設計し、製糸場をイメージさせるレンガの壁と大きな屋

根が印象的なものとなりました。この駅舎は、鉄道と町をつなぐ大きな門をモチーフとしており、訪れたお客様にわくわくするような気分を味わっていただける外観となっております。上州富岡駅が地域の交流拠点として、観光客だけでなく、地域の皆様が気軽に利用できる活動の場としていただければ幸いです。

結びに、本事業に様々なご尽力を賜りました皆様に対し、心から感謝申し上げます。

群馬県 県土整備部 部長
上原幸彦
Yukibiko Uehara



株式会社TNA
代表取締役
武井 誠
Makoto Takei

写真：堀田貞雄

設計者

世界遺産「富岡製糸場」の玄関口としての駅 街を豊かにする縁側としての駅

上州富岡駅は世界遺産に登録された富岡製糸場の玄関口となる上信電鉄の主要駅です。軽やかに浮いた大屋根は富岡市の観光拠点としての門であり、市民の交流スペースとして開かれた半外部空間を生み出しています。大屋根の下には地方の街の身の丈にあった大きさの待合室やコンコース、情報コーナー等が点在し、縁側のような心地よい憩いの場所となります。

富岡製糸場で採用された「木骨煉瓦積

造」という構造の最先端追求の気概を継承すべく、駅舎は「鉄骨煉瓦積造」という現代的なハイブリッド構造によって建てられました。鉄骨のブレースの形をなぞるように積まれた煉瓦壁はベンチや掲示板・間仕切りなどの駅舎に必要な機能を満たしつつ、同色の煉瓦は敷地を越え歩道や広場、駐車場へと連続していき、世界遺産の街へのおもてなしに相応しい駅前空間を創出しています。

施工者

熱意がすべてを可能に変える

世界遺産の玄関口となる駅舎という位置付けから、市民・行政はもちろん、多方面の方々から注目を集めてスタートしました。この建物のデザインは鉄骨と煉瓦というシンプルでスマートな印象ですが、その構造にはモックアップを製作しても想像もつかない複雑なものがありました。煉瓦は構造的・意匠的な役割を同時に担い、建物細部までこだわり抜かれていました。我々は様々な形体からなる約8万個の煉瓦と向き

合い、膨大な資料から、時には模型を駆使し、設計者（意匠・構造）と協議に協議を重ねていきました。

現場では卓越した熟練の職人さん達と共に試行錯誤しながら、この「鉄骨煉瓦積造」と呼ぶ特殊構造に挑み、作り上げることができました。

これに携わるすべての方々の熱意があらゆることを可能にし、共に一丸となることで成し遂げられたと強く感じています。



佐藤産業株式会社
本社 工事部
次長
邊見 広
Hiroshi Henmi



煉瓦壁はいろいろな役割を持つ。



鉄骨フレームと煉瓦による鉄骨煉瓦積造。

された多大な努力にも目を見張るものがある。
この計画で特筆すべきは、富岡製糸場の世界遺産登録といった追い風があったにせよ、設計競技の企画から施設の竣工までのそれほど長くない期間で、駅舎の整備を端緒に街の景観づくりを、行政・民間事業者・設計者・施工者が市民と一体となって実現した点にある。駅舎と広場・道路境界での建築と土木の垣根を取り外し、県・市・民間という異なる発注区分や

行政区分を調整するなど、設計者だけでは到底解決し得ないさまざまな課題を忍耐強く解決した建築主、特に県や市の行政担当者の努力が計画全体の完成度を高めている。
作品の魅力と共に建築主の街づくりに対する見識の高さに敬意を表し、BCS賞特別賞にふさわしい作品として高く評価する。
【選考委員】
佐々木睦朗・宮崎浩・小林照雄

計画概要

建築主：上信電鉄(株)
群馬県
富岡市

設計者：(株)TNA
小西泰孝建築構造設計

施工者：佐藤産業(株)

所在地：群馬県富岡市富岡1607-3、1605-3、
1599-3、1598-2、1596-3、1592-3の各一部
竣工日：平成26年3月17日

敷地面積：1,377.96㎡
建築面積：807.72㎡
延床面積：480.39㎡

階数：地上1階
構造：鉄骨造 一部組積造(鉄骨煉瓦積造)